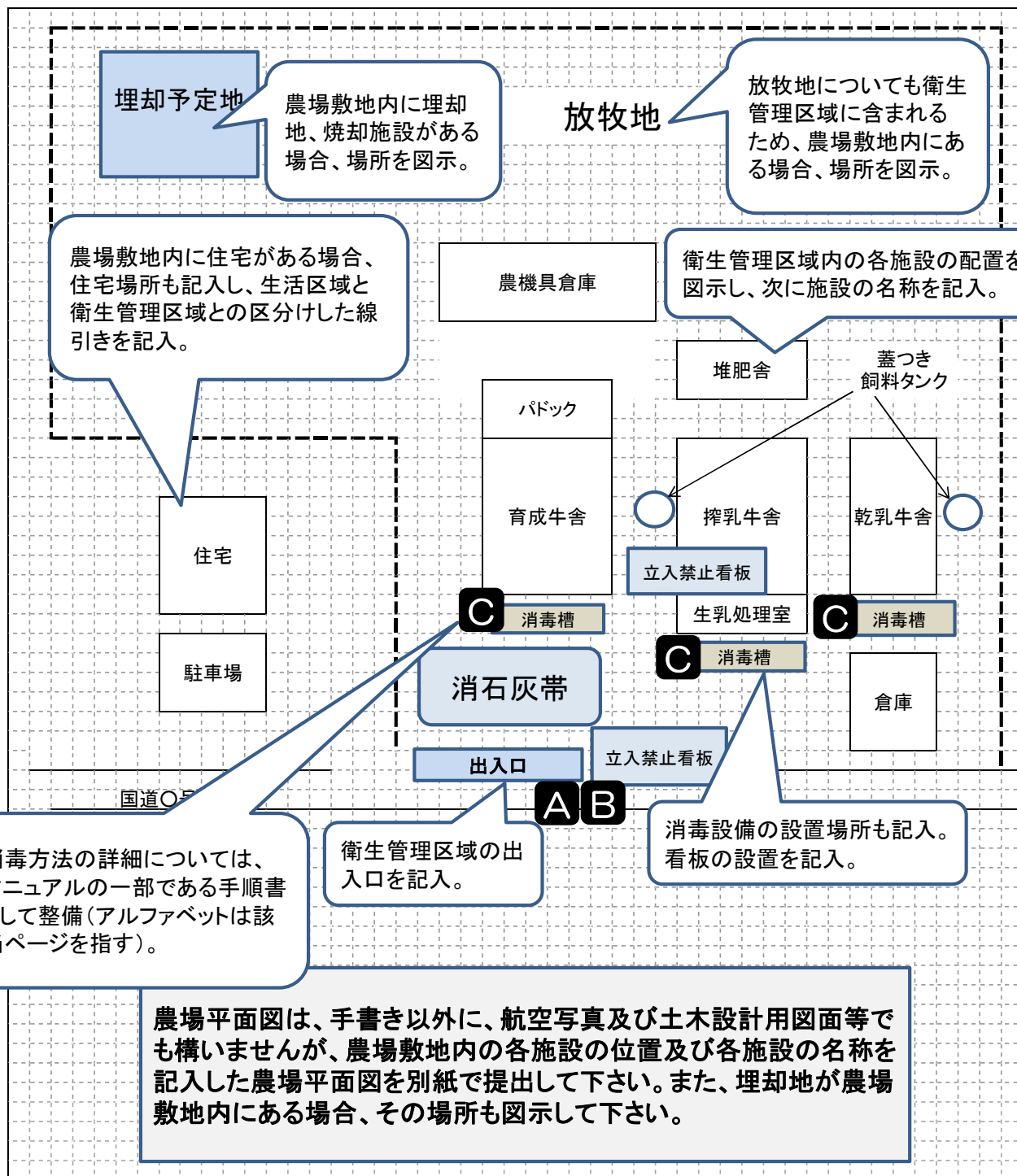


1 農場の平面図

農場名がない場合、家畜の所有者を記入。

農場の名称 北海 太郎

農場の所在地 ○○市○○町×番地



記載事項

- ①衛生管理区域内の各施設の配置場所、名称（畜舎、立入禁止看板、飼料タンク、飼料倉庫、生乳処理室、たい肥化施設、農機具庫、パドック等）及び出入口と近辺の見取り図を記載。
- ②農場敷地内に住居等の生活区域が存在する場合、生活区域と衛生管理区域を区分けした線引き。
- ③消毒設備の設置場所（衛生管理区域、畜舎（ふ卵舎）の出入口に設置した消毒設備）。
- ④農場敷地内に埋却用地がある場合、その場所も記入。

※別紙で提出する場合、様式は自由ですが、欄内に「別添」と記載し、上記の①～④までの事項を図面に記載。

2 飼養衛生管理マニュアル：農場における遵守事項

作成年月日： 年 月 日

番号	遵 守 事 項	重点事項
①	衛生管理区域内（以下「区域内」）で使用する衣服、長靴、車両は、衛生管理区域外では使用せず、野生動物の狩猟への参加は控えます。	
②	他の農場等の畜産施設には、不要に立ち入りません。	
③	海外へ渡航する場合、その旨、飼養衛生管理者へ事前に報告します。帰国後は、飼養衛生管理者に報告の上、海外で使用した衣服等は区域内に持ち込まず、原則 1 週間は区域へ入りません。 （やむを得ず立ち入る必要が生じた場合は、シャワーで入念に洗浄し、手指や身に着けている眼鏡や時計等の消毒を徹底します。）。	
④	海外では、家畜の飼養農場等の畜産関係施設には、不要に立ち入りません。	
⑤	区域内に、肉製品（特に海外で製造されたもの）は、持ち込みません。また、外国人技能実習生等には、母国（家族等）から肉及び肉製品を含む荷物が送付されないよう指導します。	◎
⑥	区域内には、飼養管理に不必要な物品等は持ち込みません。	◎
⑦	家畜の飼養管理に必要な飼料添加物や医薬品、設備修繕のための工具等を区域内に持ち込む場合は、事前に飼養衛生管理者へ報告し、消毒した上で持ち込みます（紙袋等は外装の消毒を徹底）。	
⑧	区域内に、犬・猫等の動物が入らないよう対策し、畜舎では給餌しません。	
⑨	家畜の飼養管理に係る作業の前に、犬や猫等の動物に触れた場合は、手指は洗浄・消毒し、専用の衣服に着替えてから作業します。	
⑩	畜舎や飼料保管庫等にネット等を設置し、野生動物の侵入を防止対策を徹底するとともに、定期的に設備を点検し、破損等を確認した場合は直ちに修理します。また、夜間は野生動物の侵入を防ぐため、畜舎の出入口を閉めます。	◎
⑪	飼料については、ねずみ等が接触しないよう、フタ付きのタンク等で適切に保管するとともに、日頃から殺鼠剤や粘着シートにより駆除を行います。	◎
⑫	死亡家畜は、直ちに化製場へ搬入します。搬入までに時間を要する場合は、ブルーシートで被う等を、野生動物との接触防止対策を講じた上で、保管します。	
⑬	日頃から、区域内を衛生的に管理するとともに、ねずみが隠れ場所を作らないよう、不要な物品は、適宜片づけます。 区域内に出入りする場合は、手指や長靴の消毒は徹底し、使用した衣服や物品についても洗浄・消毒を徹底します。 また、農場の出入口や畜舎周囲には定期的に消石灰を散布します。	◎
⑭	生きた家畜を出荷する場合、搬出後は作業場所を洗浄、消毒し、また、出荷する家畜に異状を確認した場合は、出荷を中止します。	

※消毒方法等については、別添参照。

A 衛生管理区域の出入口における消毒方法

消毒の場所：衛生管理区域境界（農場の出入口）

消 毒 薬：逆性石けん（パコマ、アストップ等）

使用方法：500 倍希釈の消毒薬を高圧洗浄機で散布

① 車両全体、タイヤ周りを入念に消毒する。



※ 隅々までかけることを意識する。

※ 特に、タイヤ周りは病原体が付着しやすいため、入念に消毒を行う

※ 消毒を実施する場所には消毒が必要な旨、看板等で表示する。

② 必要に応じて車両内部を消毒する。



※ ペダルやハンドル等の車両内部は、手指用の 70%アルコール（又は塩化ベンザルコニウム）で消毒する。70%アルコール使用時は、火気の手扱いに注意する。

※ フロアマットは、必要に応じて洗浄し消毒薬を散布する。

（農場で使用した長靴のまま、運転は行わない。）

B 衛生管理区域に出入りする際の消毒等

消毒の場所：衛生管理区域境界（農場の出入口）

消毒薬：複合次亜塩素酸系（ビルコン等）

使用方法：説明書に従い、500 倍希釈し使用

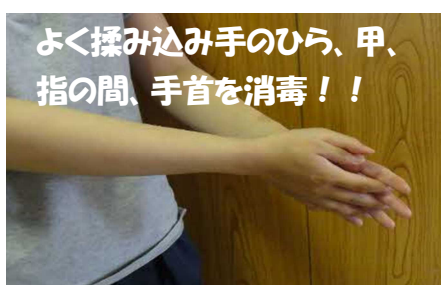
① 農場で作業する際の衣服・長靴を着用し区域内へ入る。



※ 衛生管理区域外の作業には用いない。緊急の来客があった場合、使い捨ての防疫着を使用させる。

※ 来場者は、当日未使用の作業服の着用、長靴の消毒を徹底している場合に入場を認める。また、区域内で家畜に触れる場合、使い捨て手袋を着用させる。

②手指の消毒（70%アルコールによる消毒）、手袋の使用



※70%アルコール使用時は、火気の手扱いに注意する。

C 畜舎に出入りする際の消毒等

消毒の場所：各畜舎の出入口

消毒薬：逆性石けん（パコマ、ロンテクト等）

使用方法：説明書に従い、500 倍希釈し使用

①長靴に付着した有機物等を水とブラシを使用し洗い流す



②消毒液の中に十分に長靴を浸し、一定時間待つ。 消毒槽が浅い場合、ブラシで長靴全体に消毒薬をかける。 近くに水道がない畜舎では洗浄槽と消毒槽を準備する。



※ 消毒薬は、汚れた場合や、作成後に長時間経過した場合に効果を失うことから、汚れた場合には直ちに交換し、少なくとも毎朝、消毒薬を取り換える。

D 作業用衣服の洗濯方法

消毒の場所：洗浄室

消毒薬：逆性石けん（パコマ、ロンテクト等）

使用方法：説明書に従い、1,000 倍希釈し使用。

①大きな汚れは水洗いで落とし、消毒薬に一晩浸け置きする



※ 糞等が付着したままだと、消毒効果がなくなるため、浸け置き前に水洗すること。

②通常と同様に洗濯を実施する。



※ 洗濯機が破損しないよう、消毒液は軽く水洗いで流す。

※ 当該洗濯機では、区域内で使用する衣服専用で使用する。

E 物品の消毒方法

①金属系の工具、プラスチック系の小物の消毒

消 毒 薬：70%アルコール

使用方法：物品に直接噴射し乾燥させる。

※70%アルコール使用時は、火気の手扱いに注意する。

②個体用の餌箱、ロープ、スコップ、①以外のもの

消 毒 薬：逆性石けん（アストップ、ロンテクト等）

使用方法：500 倍希釈の消毒液をバケツに作成し、
一晩浸漬し、水洗い後、十分に乾燥させる。

①軽く水洗いした後、消毒薬に漬け込む。



②給餌バケツや家畜に接触する物品、体内に挿入して使用する物品等については、消毒薬の影響が出ないように、浸漬後は十分に水洗する。

③汚れがひどい場合は、ブラシ等を用い、十分に洗浄する。

F 畜舎の消毒方法

①洗浄方法

消 毒 薬：逆性石けん（アストップ、ロンテクト等）

使用方法：説明書に従い 500 倍希釈し使用。

②洗浄後の消毒

消 毒 薬：消石灰、ドロマイト消石灰等

使用方法：消石灰を水で溶かし、石灰乳として壁、柵、天井に塗布する。

①全体を水洗いし、逆性石けんとブラシを用いて汚れを落とす。



※ 汚れがこびりつき取れない場合はスコップ等を使ってはがす。

※ 餌や家畜に直接かからないよう注意する。

②水洗により消毒液を流し、十分に乾燥させる。

③乾燥させたら、壁、天井、柵に石灰乳を塗布する。



緊急連絡先一覧

■ 農場関係者

所有者 : 〇〇〇〇 090-xxxx-xxxx

飼養衛生管理者 : 〇〇〇〇 090-xxxx-xxxx

従業員 A : 〇〇〇〇 090-xxxx-xxxx

従業員 B : 〇〇〇〇 090-xxxx-xxxx

従業員 C : 〇〇〇〇 090-xxxx-xxxx

管理獣医師 :

共済 : 〇〇獣医師 090-xxxx-xxxx

■ 関係団体等

〇〇町役場畜産 : 〇〇〇〇 090-xxxx-xxxx

〇〇農業協同組合 : 〇〇氏 090-xxxx-xxxx

〇〇化成所 : xxx-xxx-xxxx

死亡家畜運搬トラック : xxx-xxx-xxxx

飼料運搬会社 : 090-xxxx-xxxx

■ その他

と畜場（食鳥処理場） : xxx-xxx-xxxx

■ 家畜に異状があった場合

〇〇家畜保健衛生所 : xxx-xxx-xxxx